

朝霧

納骨堂の境内から聖歌が流れる　ソプラノのいい聲だ

みすくひの水に罪きよめられ　あらたに生れしわれ

は神の子・・・

その歌の方へ　ひとりの盲が杖を曳く　彼は草を分

ける楓の幹をちよいと叩く

さうして覚束なげに歩みを運ぶ　朝霧は臙に霽れ

て　彼を包む夜明けの色

(昭和十四年「山桜」一月号